



ユニバーサルデザイン



ユニバーサルデザイン (英: Universal Design) とは

文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの個人の違いにかかわらず、出来るだけ多くの人々が利用できることを目指した建築（設備）・製品・情報などの設計（デザイン）のことであり、またそれを実現するためのプロセス（過程）です。

「可能な限り最大限に」と、今まで以上のものを求める姿勢

デザインする上での7つの原則

1. **誰でも公平に使える（公平性）** 一人ひとりの状況が違って、誰もが同じようにストレスなく使える。
2. **自由に柔軟に使用できる（自由度）** 使う人の能力やさまざまな傾向に合うように作られていて、多様な利用者や使用環境に柔軟に対応
3. **使い方が容易でわかりやすい（単純性）** 使う人の経験や知識、言語能力などに関係なく使い方がすぐに把握
4. **必要な情報がすぐ理解できる（明確性）** 使う人の聴覚や視覚などの能力に関係なく、情報がスムーズに提供
5. **間違っても重大な結果にならない（安全性）** うっかりミスや意図しない行動があっても、危害を及ぼすリスクがない
6. **少ない労力で効率的に楽に使える（省体力）** 無理のない姿勢や少ない力で使え、くり返す動作は最小限からだに負担をかけずに使える。
7. **使いやすい十分なスペースが確保されている（空間性）** どんな体格や姿勢、移動能力に関わらずアクセスしやすいスペースと大きさを確保

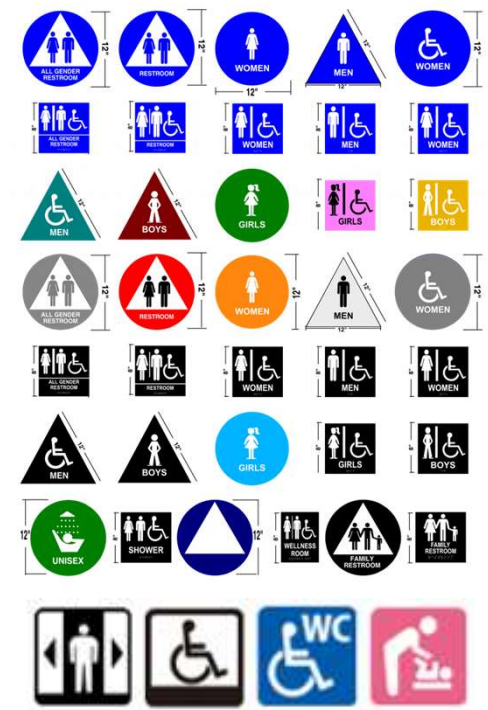
かきくけこ（MSゴシック） 20POINT

かきくけこ（BIZ UDゴシック） 20POINT

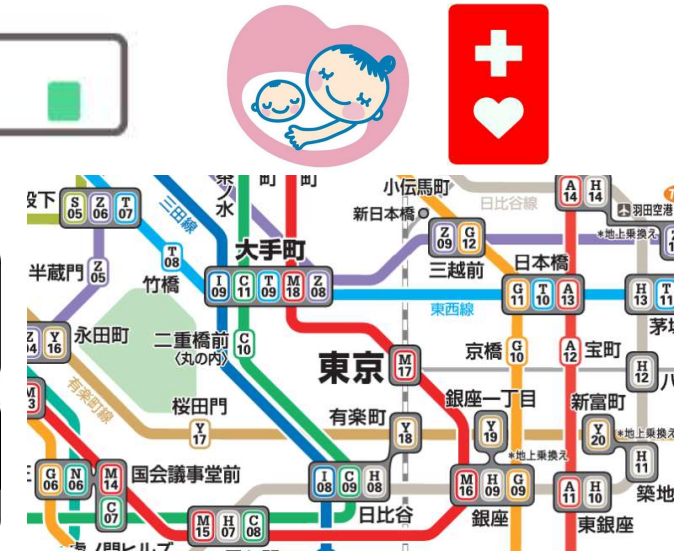
UDフォントは、フォント名のどこかに「UD」と表示されています

UDデザイン例 身の回りに「いっぱい」！！

- 建築・住宅：建築は誰もが使えなければおかしい。が原点
- 公共交通：国土交通省がユニバーサルデザイン政策大綱を定めた
- プロダクト：高齢者をユーザから除外して経営は成り立たない
- ワークプレイス：多様なワーカーが働くことを前提「誰でも働きやすい」
- 衣：審美性, 機能性, 有用性, 社会性, 安全性, 視認性などが重要
- 学校教育：障害のあるなしにかかわらず、最適な教育を受けられる
- 海：障がい者や高齢者の方が自らが訪れ、海水浴を楽しめる場所



とえい あさくさせん
都営浅草線の場合



UDフォント き→き 京→京
ゴシック体 明朝体